第２学年　道徳科学習指導案

日　時　令和３年１１月２５日（木）５校時
児　童　２年1組　男１２名　女９名　計２１名
授業者　西城　将太

１　主題名　いっしょにあそぼう　（B　親切，思いやり）

２　教材名　公園のおにごっこ（「新・みんなのどうとく　２」　学研）

３　主題設定の理由

（1）　児童について

学級の児童は，困っている友達がいたら声をかけたり，進んで教師の手伝いをしたりする姿が多く見られる。帰りの会に「親切見つけ」を行い，親切についてのイメージをもっている。また，１年生と遊ぶ場面を設定し機会を設けることを通して，上級生としての自覚が徐々に芽生えてきた。しかし，自己中心的に考えることが多く，親切にしたつもりの行為が，相手にとって本当に望ましいものかどうか考えずに行動することが多い。

（2）　道徳的価値について

学習指導要領第１学年及び第２学年の内容の「B　主として人との関わりに関すること」の「親切，思いやり」は，「身近にいる人に温かい心で接し，親切にすること」である。この内容項目は，次のように発展していく。

低学年	中学年	高学年	中学校
身近にいる人に温かい心で接し，親切にすること。	相手のことを思いやり，進んで親切にすること。	誰に対しても思いやりの心をもち，相手の立場に立って親切にすること。	思いやりの心をもって人と接するとともに，家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し，進んでそれに応え，人間愛の精神を深めること。

思いやりとは，相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り，相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。また，相手のことを思いやって親切をしても相手に伝わらないこともある。低学年では，相手がしてほしい親切をすることで，された側だけでなく，した側などみんなが良い気持ちになるという良さに気付かせる。

（3）　教材について

本教材は，「審判をしてもらおう」というしんじの考えや「かわいそうだから入れて，追いかけない」と考えたよしえの行動を発端にして，ゆうたをおににしないしんじ達の思いや鬼ごっこをやめてしまったゆうたの思いを考えることを通して，本当に相手の立場に立って考え，行動することの大切さに気付かせることのできる教材である。

4　主な各教科等との関連

学級活動（通年）
「全員遊び」

生活科（１１月）
「うごくうごくわたしのおもちゃ」
（１年生との交流）

道徳（５月）
まいごのすず
（親切，思いやり）

→

道徳（９月）
ぐみの木と小鳥
（親切，思いや

→

道徳（１１月）
公園のおにごっこ
（親切，思いや

5　本時の指導

（1）　ねらい

身近にいる人に対して，相手の気持ちを考え，親切な行為を行うことを通して，相手の喜びを自分の喜びとして受け入れようとする心情を育てる。

（2）　展開

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の意図・留意点
つかむ５分	１　教材への関心を高める。 ○年下の友達と遊ぶ時に気を付けることはありますか。	・優しくする。 ・手加減する。 ・教えてあげる。	・授業前の児童の考えを確認し，本時の話し合いの方向性を位置づける。
ふかめる30分	２　教材を基に話し合う。 ○どうしてしんじは，「ゆうちゃんには，しんぱんをしてもらおうか」と言ったのでしょう。	・年下だし，怪我が心配だから。 ・速く走れなくてつまらないから。	・Ｐ １３０の４行目までの教材を分割提示する。 ・しんじ達の相手を思う気持ちや，年下の子とおにごっこをすることのやりにくさに共感させる。
	○ゆうたがおにごっこをやめて，みんながだまりこんだ時，みんなはどんなことを考えていたと思いますか。	・手加減が嫌なのかも。 ・何か悪いことしたかな。 ・せっかく親切してあげたのに。	・親切をしたのに上手くいかなかった戸惑いの気持ちに共感させる。 ・グループで話し合い，他者理解させる。
	○どうしてしんじにタッチされて，おにになったゆうたは元気になったのでしょう。	・ゆうたは手加減してほしくなかったから。 ・みんなと同じように遊びたかったから。	・Ｐ １３０の５行目から最後までの教材を提示する。 ・自分たちがやっていた行動は相手がしてほしいことではなかったことに気付かせる。
	◎ゆうたが元気になった姿をみて，しんじたちはどんなことを思ったでしょう。	・ゆうたが元気になって良かった。 ・自分たちも嬉しい。	・ゆうたが元気になった姿を見て，しんじ達も良い気持ちになったことをおさえる。
	○はじめの親切と後の親切，どちらも親切ですが違いは何ですか。	・後の親切は，相手の事をよく考えている。	・はじめと後のおにごっこを比較し，相手のことをより考えた親切の良さに気付きやすくする。

みつめる 5分	3　道徳的価値の内面的自覚を深める。 ◯これからみんなは，お友達と遊ぶ時，どんなことに気を付けていきたいですか。	・相手の気持ちをよく考えて遊びたい。 ・友達が嫌な気持ちにならないように気をつけたい。	・本時の学習について，親切な行為を行うことをで，相手の喜びを自分の喜びとして受け入れようとする心情が高められるように自分の考えを道徳ノートに書く。
ひろげる 5分	4　今後の実践につなぐ。 ・児童の振り返りを交流する。		・友達の振り返りを聞くことでより理解を深めるために交流する。

（3）評価の視点

◯物語の最初のおにごっこと最後のおにごっこの思いを多面的・多角的に考えることで，相手にとって本当の親切とは何かを深く考えていたか。

◯身近な人に相手の気持ちを考えて親切にしようとすることの大切さや難しさを自分との関わりで考えていたか。

4）板書計画

年下のともだちとあそぶ時に気をつけることはありますか。
・やさしくする。
・手かげんする。
・おしえてあげる。

公園のおにごっこ

あとの親切
・相手のことをかんがえている。
・みんながよろこんでいる。

挿絵

挿絵

・年下だし怪我が心配だから。
・速く走れなくてつまらないから。

・手加減が嫌なのかも。
・何か悪いことしたかな。
・せっかく親切にしてあげたのに。

挿絵

挿絵

・ゆうたは手加減してほしくなかったから。
・みんなと同じように遊びたかったから。
・ゆうたが元気になって良かった。
・自分たちも嬉しい。